

# ビスフォスフォネート系薬剤の投与を受けている患者さんの顎骨壊死・顎骨骨髓炎に関するご注意のお願い

ビスフォスフォネート系と称される薬剤（BP系薬剤）の投与を受けた患者さんにおいて、顎骨壊死・顎骨骨髓炎が発現したと報告されています。

報告された症例の多くは、抜歯等の侵襲的歯科処置や局所感染に関連して発現しており、特に抜歯した場合にその部位付近で発現しています。

BP系薬剤には注射剤と経口剤があり、顎骨壊死・顎骨骨髓炎は癌患者に投与される注射剤で多く報告されていますが、まれに骨粗鬆症患者等に投与される経口剤でも報告されています。BP系薬剤の投与を受けた患者さんにおける顎骨壊死・顎骨骨髓炎のリスク因子として、下記が考えられています。

- ◇ 悪性腫瘍
- ◇ 化学療法
- ◇ コルチコステロイド治療
- ◇ 放射線療法
- ◇ 口腔の不衛生
- ◇ 侵襲的歯科処置（抜歯、インプラント等）

## 先生方へのお願い

**歯科または口腔外科における治療に際しましては、下記の点にご留意くださいますようお願い申し上げます。**

- ◆ 歯科処置の前にはBP系薬剤を投与されているか、患者さんにご確認ください。
- ◆ BP系薬剤（注射剤）の投与を受けている患者さんの場合、侵襲的歯科処置は、できるだけ避けてください。
- ◆ BP系薬剤（経口剤）の投与を受けている患者さんの場合、侵襲的歯科処置は、患者さんの状態・リスク因子を十分考慮した上、ご判断ください。
- ◆ 侵襲的歯科処置が必要な場合、また、顎のしびれ・痛み・腫れ・骨の露出等の異常がある場合は、個々の患者さんの状態に応じてBP系薬剤（注射剤・経口剤）の休薬も含め今後の治療方針を考慮する必要があります。本剤を処方された医師にご相談ください。
- ◆ 侵襲的治療を行った場合、治療後の患者さんのケアを十分に行ってください。
- ◆ 異常が認められた場合には、直ちに歯科・口腔外科を受診するように患者さんに十分ご説明ください。
- ◆ 口腔内を清潔に保つよう患者さんにご指導ください。

最新の添付文書は、弊社ホームページ（<http://www.nihon-generic.co.jp/medical/>）ならびに医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp>）でもご覧になれますのでご参照ください。また、医薬品医療機器総合機構のホームページには「患者向医薬品ガイド」も掲載していますのでご利用ください。